

新潟県知事賞

未来のために

長岡市立北中学校

三年 大関 いち夏

小学校六年生の時、突然私たちを襲った一斉休校。当たり前に行っていた全校での卒業式ができなかった。中学校入学後もしばらく分散登校が続き、友達と一緒に教室を移動したり、喋ったりができなかった。今ではできているものの当時はすごく制限されていた。

そんな私たちの生活を変えた新型コロナウイルス。今ではその対策として、ワクチンが無償で打てることは当たり前のように思う。私はふと思った。「ワクチンは無償で手に入るはずがないのに、なぜ無償で打っているのか。」気になって調べたら、全額国の税金で負担されていることを知った。正直、税金と聞くと、二〇一九年にすべてではないが一〇%に引き上げられ、何かものを買う時には必ず消費税がかかるからマイナスのイメージが強かった。無駄にお金を払っている気がして、なければいいのになと思っただこともあった。しかし、ワクチンが無償で打っている今、そんなことを考えることは無くなった。一つものを買うのにかかる消費税は少しだけど、それでも毎日誰かが買物をしていて、その小さな積み重ねによって、私たちは毎日快適に過ごしている。例え

ば、コロナ禍が始まる前からでも当たり前にあった救急車や警察を呼ぶこと、小中学校の教科書の無償化など様々なことに税金が使われている。ワクチンもその一つといえるだろう。実際私もワクチンを打つことで、コロナへの恐怖感が和らいだり、マスクをつけてのある程度の外出はできるようになった。さらに、税金でまかなわれているおかげで、みんなが同じようにワクチンを打てる環境にある。「みんな平等」そういう点においても、税金というのは大切なんだと気づかされた。もし税金を納めていなかったら、この当たり前がなくなってしまう。この突如現れた新型コロナウイルスにも対応できなかっただろう。誰も予想していなかったこと、このコロナ禍には膨大なお金がかかっているにも関わらず、布マスクの配付や給付金など、国の様々な対応によって私たちは経済的に困ることなく、生活ができていく。これも、税金のおかげだ。

私たち中学生には、税金といっても消費税を払うことくらいしか実感がないのかもしれない。しかし、その税金のおかげでこの世の中が少しでも良くなる、困った時にすぐに救急車や警察が呼べる、薬もお金がかからないなど、身近なことに税金は使われている。だから、誰かのためになると考えると、税金に対する気持ちのあり方も変わっていくと思う。私にできることはとても限られているが、その中で自分のできることを精一杯やって、少しでも誰かを救いたい。そして、過ぎしやすい未来のために今、納税という義務を果たしていく。